

# JICA海外協力隊 OBインタビュー

## 上坂さんの活動内容

2018年10月から青年海外協力隊員としてドミニカ共和国に赴任。同国で活動する環境NGO団体に配属され、環境教育と有機農業の指導に携わる。現地の小学校でゴミ問題やコンポストを題材とした授業や環境保全活動を展開し、また自身が取り組んだ学校菜園を活用して、学校の教員や児童に対し自然農業を使用した有機野菜栽培などを指導した。

## PROFILE

こうさか きょうへい  
上坂 恭平さん

富山県高岡市出身

2018年度2次隊  
派遣国：ドミニカ共和国  
職種：野菜栽培



大学を休学して、協力隊に参加した上坂さん。そのきっかけや協力隊のその後の活動について聞いてみました！

### Q1 協力隊に参加しようと思ったきっかけは何ですか？

大学で植物病理学(※)を学んでいた私は、日本だけでなく、世界の農家が植物病で困っていることを知りました。さらに深刻なのは植物病によって農作物を収穫できず、餓死してしまう人々がいることでした。この事実を知った時、国際協力に興味を持ちました。さらに大学教授がJICAのシニア海外ボランティア経験者だったこともあり、話を聞かずに、自分も参加してみたいと強く思いました。

※植物の病気を解明し防除に役立つ学問



小学生と学校菜園を作りました！

### Q2 帰国後、どんな活動をしていますか？ また協力隊の経験がどのように役立っていますか？

帰国後は大学に復学し、積極的に国内での国際協力活動に参加しています。例えば、オンラインで富山県の小学生に出前講座を行ったり、大学が主催した国際協力ワークショップなどにも参加しました。こうして積極的に動くことができるのも、現地での活動を通して、ドミニカ人の笑顔に触れ、ワークショップなども上手くいったというかけがえのない成功体験を得たおかげで、自信を持つことができたからだと思います。現地で頑張ったからこそ、今の自分がいる！今でも何かにくじけそうなき、ドミニカでの経験が支えとなっています。



同僚と上坂さん(一番右)

### Q3 今から応募しようと思っている(悩んでいる)方へひと言

私は知識や経験が乏しい20歳で応募しました。少しの望みをもって、面接官にその熱意を伝えました。その面接官とはドミニカ共和国で再会する縁にも恵まれました。人生の岐路に立った時、私はその選択が「自分にとってストレスになるのか」、「自分を幸せにしてくれるのか」を考えるようにしています。なぜなら人生は自分が主役なのですから(この言葉はドミニカのホストマザーの受け売りです！)。

**JICA海外協力隊 2021年春募集** 募集期間：5月20日(木)～6月30日(水)

**JICA海外協力隊全国説明会キャラバンを石川県金沢市で開催します**

日時 2021年 6月26日(土)

会場 石川県政記念しいのき迎賓館 ガーデンルーム

各種説明会のページはこちらのQRコードから！



**JICA北陸 新スタッフ紹介 — NEW STAFF —**

**野吾 奈穂子さん (研修員受入事業担当)**

こんにちは！環境省を経てJICAに転職し、夫の出身地である北陸で17年目を迎えました。前任地JICA札幌では国際理解教育やボランティア事業を担当するかわら、自作のSDGs(持続可能な開発目標)テーマソングで広報したり若い世代の国際キャリア相談も行ってきました(詳しくは「JICAシンガーソングライター」で検索！)。北陸で担当する研修事業は、私が転職するきっかけとなった途上国からの研修員と出会い学びあう場です。市民の皆さまにも研修員たちをご紹介する機会を増やし、そして、地方創生や外国人とのよりよい共生に向けて、地域の皆さまと一緒に取り組んでいきたいです。どうぞよろしくお願いたします！

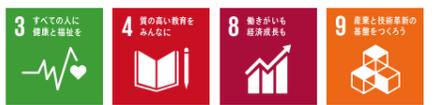


北陸から国際協力を発信！

# JICA北陸's World

News Letter 2021  
春号 / SPRING

今年度は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、研修員受入事業では海外から研修員が来日できず、多くのコースが中止を余儀なくされましたが、一部のコースでは実施方法をオンラインでの遠隔研修に変えて実施しました。北陸での遠隔研修の事例をご紹介します。



## 日系社会研修 「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」コース

実施期間 2021年 1月12日から1月29日まで 対象国 パラグアイ

この研修コースは、2007年にパラグアイを対象に開始した北陸の研修コースの中でも歴史の長いコースです。コース開始当初から石川県立看護大学と羽咋市社会福祉協議会が協働で実施してきました。

来日研修ではどうしても受入人数が制限されますし、研修員にとっても長い移動や職場や家庭を留守にする時間が参加へのハードルになっている部分がありましたが、遠隔研修であれば移動の負担が軽減でき、来日という形では参加が難しい方にも学ぶ機会が提供できると考え、遠隔研修の実施に至りました。

実際、プログラムにはアスンシオン、イグアス、ピラポ3つの移住地から福祉ボランティア会のメンバー合計8名が参加しました。

映像教材での自己学習のあとメールやZoomを活用しての質疑応答や意見交換が行われました。専門的な内容で難しいと感じる部分もあったようですが、映像教材は繰り返し見ることができたので、その分疑問も浮かび、活発な質疑応答につながり、理解が深まったという声もありました。パソコンに触れることさえ慣れていない参加者もいましたが、対面で活動することがままならない状況でも、このプログラムのようにオンラインツールを活用することで、活動の継続はもちろん活動仲間との繋がりも保つことができると、前向きに今後の取り組みを考えていました。



オンラインでの質疑応答で熱心にメモを取る参加者



閉講式では参加者代表がパラグアイ事務所で修了書を受け取りました



パラグアイでの福祉活動の様子。幼稚園の子どもたちとの七夕飾りづくりで交流



パラグアイでの福祉活動の様子。百歳体操

## 課題別研修 「地域の特色を活かした産業振興(A)」コース

オンライン研修実施期間 2021年 2月15日から2月26日まで ※2021年度中に来日研修を予定

研修実施機関 公益財団法人 太平洋人材交流センター (PREX)

対象国 ザンビア、パキスタン、東ティモール、ブータン

本コースは地域地場産業政策や、産官学連携の仕組み、地域の名産品が生み出された背景などをテーマとして研修を行います。本年はコロナ禍の影響で、来日を延期し、オンライン研修を実施しました。困難な状況ですが、研修参加者はZoomを活用し熱心に参加し、参加者間で質疑・意見交換を行いました。中でも鯖江市との質疑応答では、過疎化が進む地方の課題を持つ研修員から「いかに産業を持込み地域に根付かせたのか？」など、自国で取り組むためのアイデアを聞き出そうとする場面がみられました。今後の来日研修に期待が高まります。



(独)中小企業基盤整備機構との質疑応答



質疑応答にご対応頂く鯖江市の皆さま